

2021年2月4日 全5頁

# 新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2021/2/4号）

個社データ・業界統計・POS データで足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 山口 茜  
研究員 和田 恵

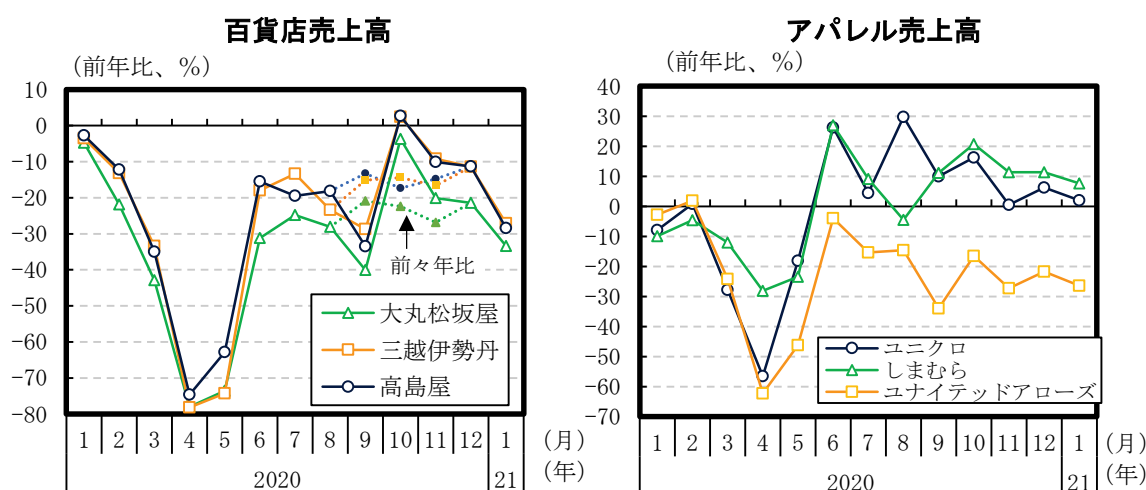
## [要約]

- 1月の消費は、新型コロナウイルス感染拡大と緊急事態宣言の再発出を受け、12月から減少したとみられる。財消費は巣ごもり需要に関連する業態を中心に堅調に推移した。他方、サービス消費は飲食店の時短営業や不要不急の外出自粛などにより大幅に減少したと見込まれる。ただし、2020年春の前回緊急事態宣言時と比べると、財・サービスともに変化は小幅に留まったとみられる。
- 【小売関連】1月の大手家電量販店の売上高は前月比+5%程度、ホームセンターは同+7%程度、スーパーは同+3%程度と増加した。感染拡大や緊急事態宣言の再発出を受けて、食品やパソコンなどの巣ごもり需要が高まっている。一方、大手百貨店の売上高伸び率は前年比3割減程度と前月からマイナス幅が拡大した。また、アパレル各社の売上高伸び率も前月から低下した。外出自粛による客数の減少等が影響したとみられる。さらに新車販売台数は前月比▲2%程度であった。
- 【サービス関連】1月の新幹線輸送量は、前年比6~8割減程度と12月からマイナス幅が拡大した。外食・旅行・娯楽関連消費と連動している小売店・娯楽施設の人出は、緊急事態宣言の対象地域だけでなく、それ以外の地域でも大きく落ち込んでいる。今後公表される1月の宿泊者数、外食売上、旅客機輸送量でも前年比マイナス幅の拡大が見込まれる。

## <小売関連>

- ◆【百貨店】大手3社の1月の既存店売上高伸び率は前年比3割減程度と、12月（同1～2割減程度）からマイナス幅が拡大。緊急事態宣言再発出を受けた客数の減少や初売りセールスの分散開催などが押し下げ。
- ◆【アパレル】1月の既存店売上高伸び率は、ユニクロとしまむらが前年比1割弱増とプラス幅が小幅に縮小。ユナイテッドアローズは同3割減程度とマイナス幅が拡大。外出自粛によるおしゃれ着の需要が減少。

図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。

色付きのマーカーは前々年比（一部は大和総研による試算値）。

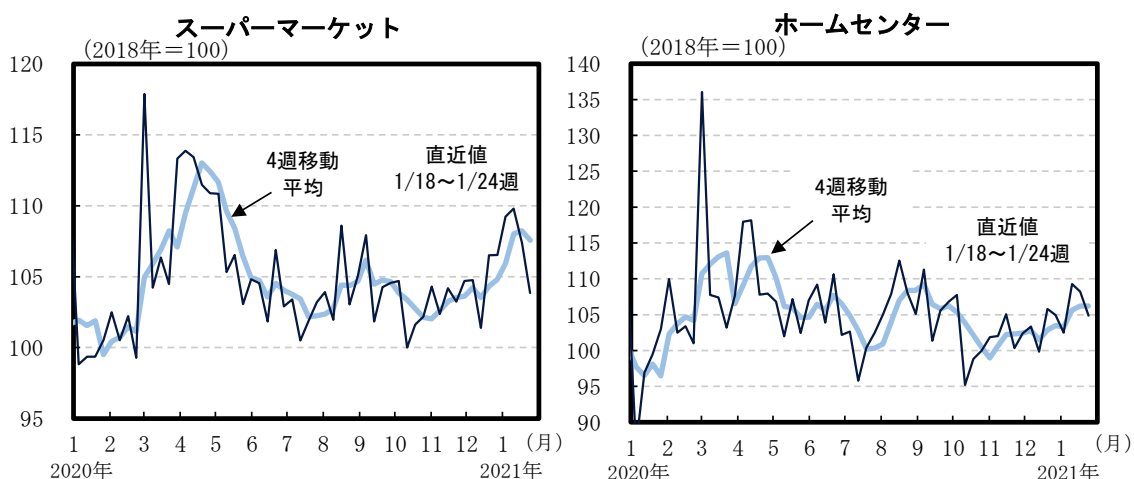
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、10月以降はオンラインストア含む。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】1月の売上高は前月比+3%程度。（大和総研による季節調整値）。主力の食品売上高も同+2%程度。
- ◆【ホームセンター】1月の売上高は前月比+7%程度（大和総研による季節調整値）。雑貨、食品などの幅広い品目で売上が増加。

図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

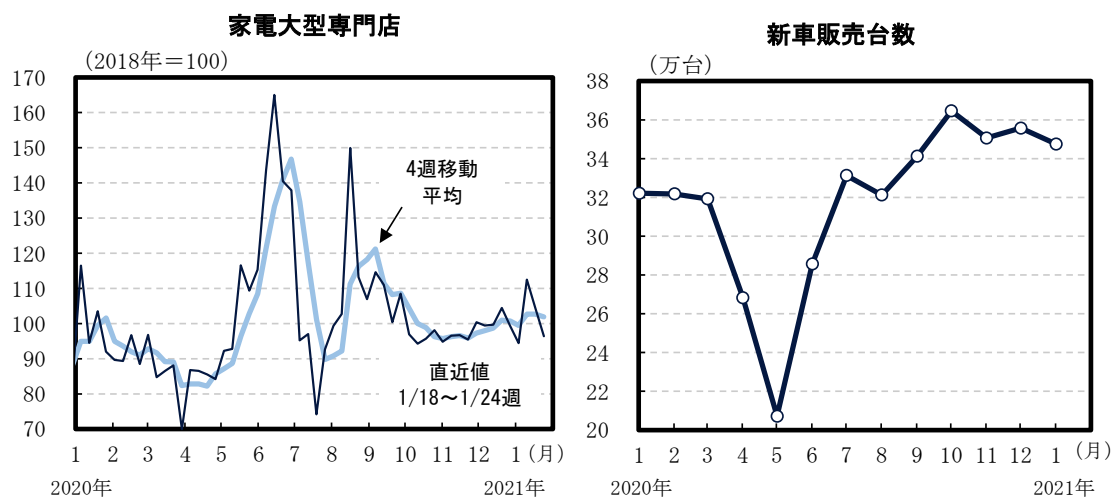


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】1月の大手家電量販店の売上高は前月比+5%程度（大和総研による季節調整値）。パソコンや洗濯機の販売が増加した。
- ◆【自動車】1月の新車販売台数は12月から8千台減少し、前月比▲2%程度（大和総研による季節調整値）。

図表3：家電・自動車の売上高



(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

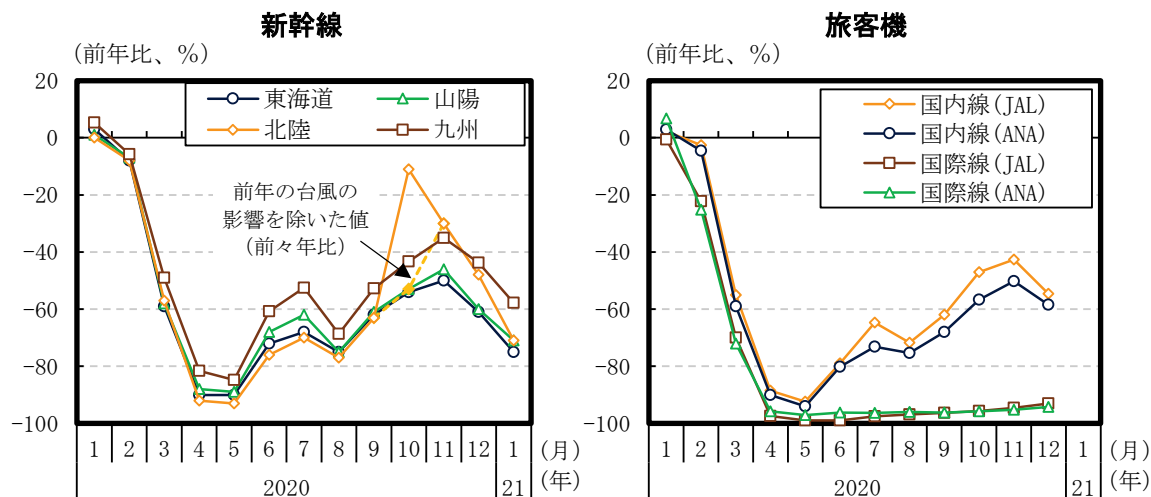
(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

### <サービス関連>

- ◆【新幹線】1月の輸送量は、前年比6~8割減程度と12月（同4~6割減程度）からマイナス幅が拡大。
- ◆【旅客機】12月の輸送量は、国内線は前年比5~6割減程度とマイナス幅が11月から小幅に拡大。国際線は同95%減程度と変化なし。1月の減便率は国内線が12月より上昇、国際線は横ばいであったことから、更なる前年比マイナス幅の拡大を見込む。

図表4：新幹線・旅客機の利用状況



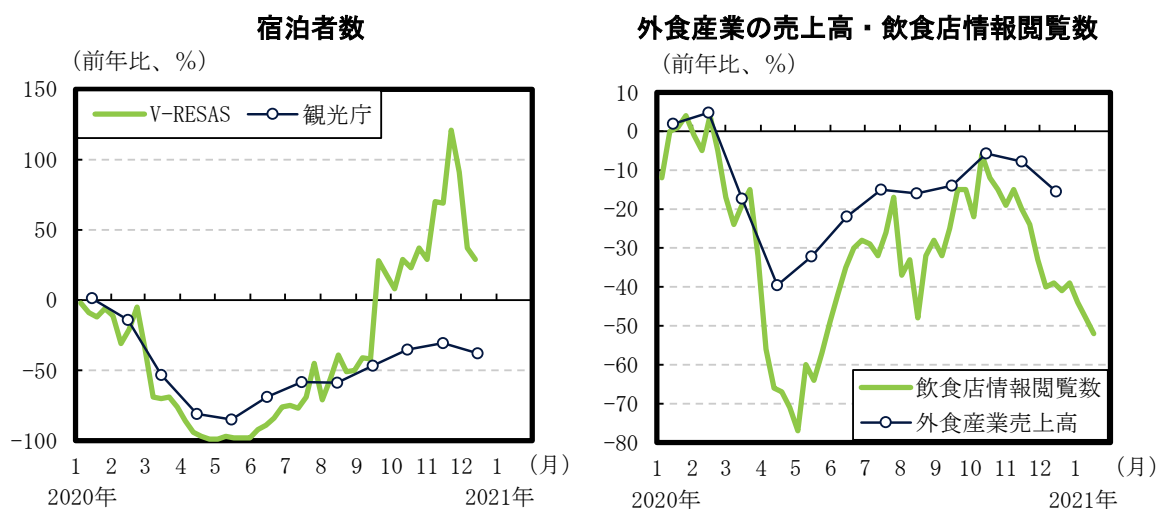
(注1) 新幹線の2021年1月の東海道は28日まで、九州は25日まで、北陸・山陽は14日まで。

(注2) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】12月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は前年比4割減程度とマイナス幅が小幅に拡大。新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化し、Go To トラベルキャンペーンが一時停止されたことが重石に。1月は感染拡大が一層深刻化していたことに加え、緊急事態宣言が再発出されたことでマイナス幅が更に拡大すると予想。
- ◆【外食】12月上伸び率は前年比16%減程度と11月からマイナス幅が拡大。12月はGo To Eat キャンペーンの制限や一時停止のほか、営業時間短縮要請の継続や感染拡大による忘年会の自粛等が重石に。1月は緊急事態宣言再発出や自粛の影響により、マイナス幅が更に拡大すると予想。

図表5：国内宿泊者数／外食産業の売上高・客数



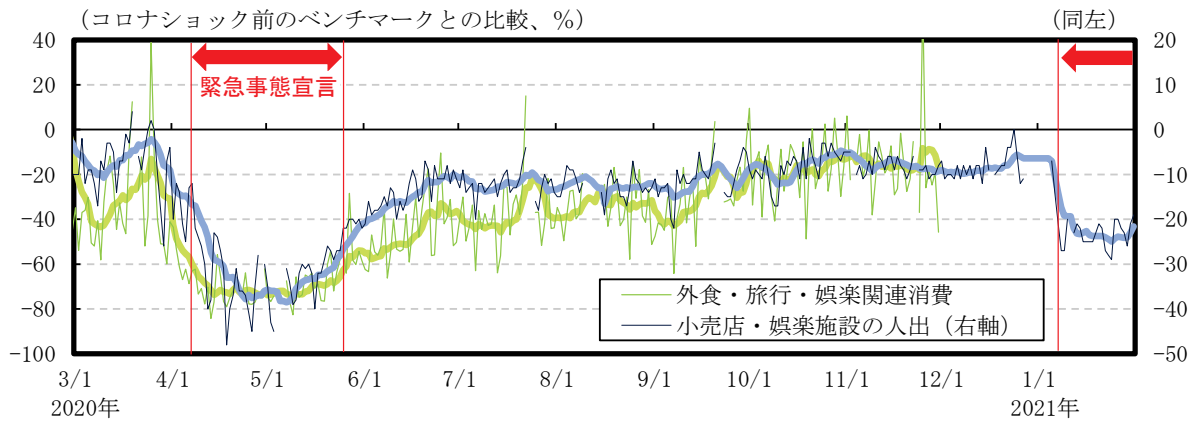
(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。

宿泊者数は、観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベース。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESASより大和総研作成

<参考：人出・高速道路交通量>

図表 6-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 1/31）と外食・旅行・娯楽関連消費

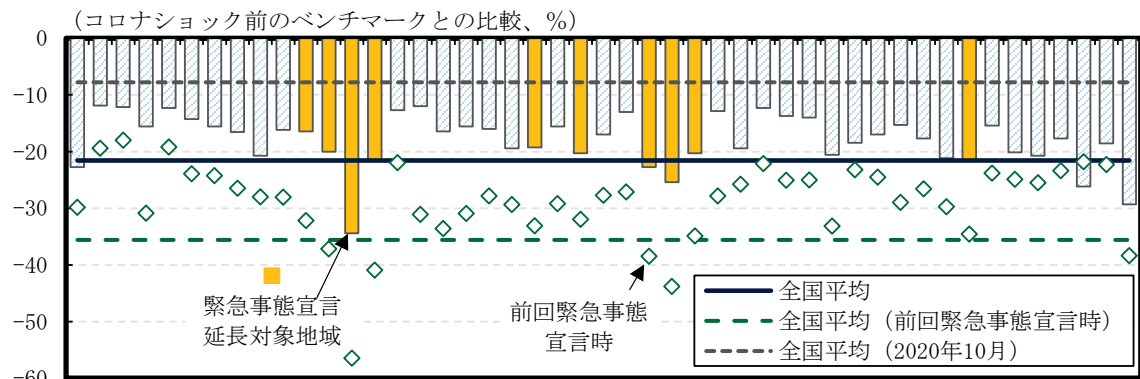


(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。

月～金曜日の祝日とお盆（8/10～14）、年末年始（12/28～1/4）のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成

図表 6-2：小売店・娯楽施設の人出（1/25～31 平均、都道府県別）

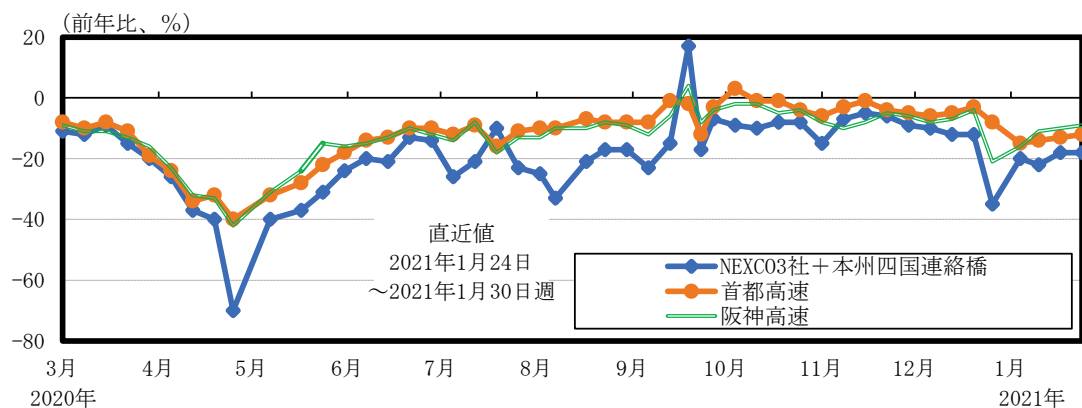


北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖  
海森手城田形島城木馬玉葉京奈湯山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄  
道 川 山 島

(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。前回緊急事態宣言時は対象が全国の期間の平均。

(出所) Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成

図表 7：高速道路交通量



(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成